



Title	今後の抱負について
Author(s)	酒井, 規夫
Citation	大阪大学看護学雑誌. 2016, 22(1), p. 32-32
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/55392
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

今後の抱負について



平成27年4月から生命育成看護科学講座 成育小児科学研究室に赴任してまいりました。酒井規夫と申します。よろしくお願いいたします。

それまでは大阪大学大学院医学系研究科小児科学に在籍しており、大菌恵一教授のもと、神経代謝・臨床遺伝グループのチーフとして先天性代謝異常症、先天異常の診療と研究、そして医療人の教育を行ってまいりました。

診療は主に先天性代謝異常症ですが、染色体異常や先天異常、原因不明の発達遅滞などの患者さんの診療を行ってきました。特にライソゾーム病と言われる細胞内小器官ライソゾームの酵素異常症により発症する全身症状をきたす疾患の酵素診断を、全国的にも中心となって行ってきました。稀な疾患も多いのですが、ライソゾーム病も合計すると5000人に一人くらいの出生率があると言われており、そんなに少ないわけでもありません。またこれらの疾患には酵素補充療法、造血幹細胞移植、器質合成抑制療法、シャペロン療法、遺伝子治療など、先進治療により根本的な治療が可能となった疾患が少なからず含まれており、治療困難な遺伝疾患としては治療の可能な疾患としてその診療意義が高いと思っています。

そして、遺伝疾患に対する医療として遺伝カウンセリングを中心とする臨床遺伝の実践を遺伝子診療部で行ってまいりました。ここでは小児疾患以外の実に多くの遺伝疾患の患者さんとの出会いがあります。

研究としては、上記のライソゾーム病の病態解析に関する研究と、治療法開発に関わる研究を目指してきました。クラッペ病の遺伝子同定、I-cell 病の病態解析はその主な成果です。

今後は、看護学専攻の中で、小児看護学の教育を最先端の医療状況を伝えながら、今後の医療の新しい現場に活躍できる医療人を育てる教育について考えることを一つの柱と考えていきたいと思っています。また、病院の中での医療を少し外側からの視点を持つことによって、新しい医療に関する研究を行っていききたいと思っています。この教育、研究においては今まで経験してきた、遺伝学の考え方が重要と思っていますので、それを縦糸にした活動を行っていききたいと思っています。おりしも医療の現場では今後ますますゲノム情報をいかに診療、研究に生かすかが大きな動きとなっており保健学専攻の活動の意義も大きくなっていると思います。

ツインリサーチセンターの活動も重要なものとなってきますし、多くの先生とも共同して保健学科の教育、研究がさらに発展することに微力を尽くしたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
統合保健看護科学分野 生命育成看護科学講座
酒 井 規 夫